

事業所名 うさぎとクローバー

運営推進会議開催報告書

開催日時 平成 29年 12月11日(月) 10時30分~11時00分		
参加者		議題
利用者	0名	うさぎとクローバーの運営状況の説明
利用者家族	0名	・会社概要について
地域住民の代表者	1名	・利用者状況について
市職員	1名	・年間行事、取り組みについて
地域包括支援センター職員	1名	・事故、ヒヤリハットについて
事業所	2名	・地域への取り組みについて
会議録		
資料に基づいて、ご説明をさせていただきました。		
<p>□ご質問があった内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護度の低い利用者が多いということだが、介護度の重い方の受け入れはどのようになっているか？ →以前は車いす全介助の方もいらしたり、現在も認知症の方や、耳が聞こえにくい方などもいらっしゃいます。 介護度にあわせた（利用者にあわせた）対応をしています。 今までに入浴が必要な状態になった方が、デイサービスクローバーに移動された方もいらっしゃいます。 また、逆にデイサービスクローバーをご利用の方が併用されることもあります。 ・地域への取り組みは今後どのような計画があるのか？ →認知症カフェを開催したいと考えています。 地域の方にひらかれた場所として午後の教室の充実もはかりたく思っています。 ・定員10名に対して実績は？ →一日平均5人くらいです。 		

□ご意見として

- ・西陵地区も年齢層が上がってきているので、クローバーを中心に地域の人が集える場所となるといいですね。
災害時など、地域の方が必要となり、被災地などでも立ち上がりやすいのは行政よりも地域と聞いたので、結束できる仕組みができればいいと思う。
- ・西陵お助け隊など、地域の働きが活発な地域なので、一緒に盛り上げていけるといいですね。
- ・初めて中に入ったが、雰囲気がよくて、利用者さんの表情も明るくていいですね。

□次回開催日程について

平成30年3月上旬を予定します。

うさぎとクローバー 運営推進会議資料

平成 29 年 12 月 11 日

<企業理念>

- ・私たちは、福祉サービスを通じて、人の心を豊かにします。
- ・私たちは、地域の困り事を解決し、住み良い社会づくりに貢献します。
- ・私たちは、変化に対応しつつ支え合い、学びながら成長し続けます。

<介護部門方針>

笑顔で気持ちよく利用者の横に座って傾聴し、利用者のニーズを把握し、必要なサービスを起こす。介護者やケアマネと寄り添いながら客観的にサービスを見直す。社外からみても明るい雰囲気が伝わるような企画をし、利用者サービスを提供する。スタッフは学びながら成長していく。

<施設案内>

開設日 : 平成25年6月

営業時間 : 9 : 30 ~ 12 : 40

“元気な方の予防型サロン”として入浴設備はありません。

定休日：土曜、日曜日 12月29日から1月3日

<利用状況について>

登録 人数： 19名（男性 1名、女性 18名）

要介護認定： 8名

要支援認定： 8名

事業対象者： 3名

平均介護度： 要介護者 1.37 要支援者 1.12

<毎日の取り組み>

送迎のご希望のある方のご自宅までお迎えに伺います。

来所してバイタルチェック、お茶タイム。

おしゃべりにひと段落つくと作品づくりがはじまります。

手先を動かしながらのおしゃべりで認知症予防に取り組んでいます。

（作品はみなさんそれぞれに編み物や、木目込みなど好きなものに取り組みます。）

昼食前には全身運動と口腔体操を行います。

オープンキッチンで手作りの昼食を皆でいただきます。

ゆっくりとお話しをした後、ご自宅にお送りします。

<年間行事> (平成29年4月～平成29年11月末まで)

7月 バザー 11月 西陵まつり出展

<ヒヤリ、事故件数> (平成29年4月～平成29年11月末まで)

ヒヤリ： 2件 事故： 0件

（内訳・・・玄関前でつまずき。立ち上がり時にいすが倒れた。）

<介護予防としての取り組み>

本来のデイサービスの概念にとらわれず、介護支援を受けているという感覚ではなく、サロンや喫茶店にでかけるような感覚で介護予防につなげたいと考えています。

また、「誰かのために」をテーマに、取り組んでいます。

作成したものをプレゼントして喜んでもらった体験は自分もまだまだやれるという自信を取り戻していただくことにつながり、心身の元気を取り戻した例もあります。

作品づくりが苦手な方には、食事作りやおやつ作りを通して、他の方に喜んでもらったり、感謝されたりすることで他者貢献を励みにして笑顔が増えた例もあります。

<大切にしていること>

企業理念、方針に基づき、利用者様の隣に笑顔で座り、ゆっくりお話を聞き、ニーズに応じていくこと。

家からなかなか出られない高齢者が気軽に通えるようにサービスを展開すること。

介護施設の雰囲気を全面に出さずに内容は介護予防を行うこと。

家族のようなゆっくりとした時間を一緒に過ごし、一緒に楽しむこと。

厨房で手作りの温かい食事の提供。

ご家族様との連絡、関係作り（送迎を介護担当のスタッフで行う）

カンファレンス、研修、避難訓練を月に一度は必ず行う。（必要に応じて適宜）

<地域に向けての取り組み>

- ・7月のバザーは、商店街内の雑貨店のイベントに日程をあわせ、内覧会をかねて普段の作品をみていただけるように展示し、作成していたお饅頭を見学にきた方と一緒に食べ、地域の方との交流の機会となりました。

- ・11月の西陵まつりでは1ブースをお借りして、取り組んできた作品を出展しました。出展は二度目で、去年出展の際には「前を通っても何をしているところなのかわからなかった」とのお声が多かったのですが、今年は知名度が上がっている感じでした。

その後、顔見知りになって前を通る時に声をかけてくださったり、午後の教室※に参加してくださる方もできました。

※午後は地域の方が集える“お教室型アンチエイジングサロン”として活動しています。

<スタッフ配置について>

- ・管理者・相談員、看護師、介護スタッフ、厨房スタッフを配置。